桑名市の人口分析

－国の基礎データより－

平成27年７月28日

桑　名　市

○地方人口ビジョンについて

・地方人口ビジョンは、各地方公共団体における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

・地方人口ビジョンは、地方版総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上での重要な基礎資料となります。

○今回提示の桑名市の人口分析データついて

・今回提示させていただきました「桑名市の人口分析」につきましては、国から提供のありました全国共通の基礎データと、「地域経済分析システム※」を用いて分析したものです。

・住宅開発や駅西の再開発等による桑名市独自の人口増減については反映をしておりません。

※地域経済分析システム

国が、地方自治体の「地方版総合戦略」の立案、実行、検証（ＰＤＣＡ）を支援するため提供する、地域経済に係わる様々なビッグデータ（企業間取引、人の流れ、人口動態等）システムのこと。

○今回提示資料「桑名市の人口分析」について

・この度の資料は桑名市の総人口や年齢構成がどのように変化してきたか人口分析を行ない、さらに国の示す仮定の下で将来人口推計を行いました。

・2015 年以降の推計値につきましては、「桑名市人口ビジョン(案)」として「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」とともに、次回、桑名市地方創生会議にてお示しします。

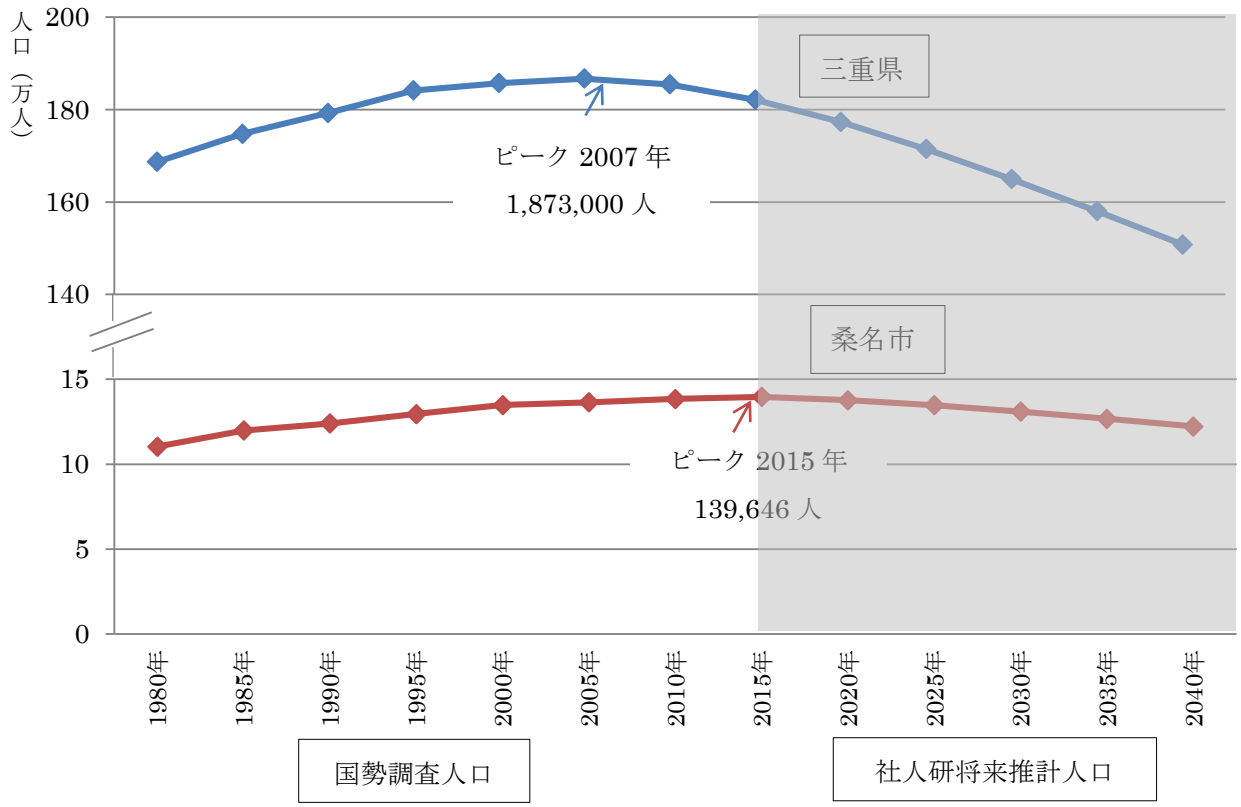
Ⅰ　桑名市における人口の現状分析

１．桑名市の人口動向分析

（１）総人口の推移と将来推計

桑名市における1980年から2010年までの総人口の推移と、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）による2015年から2040年までの将来推計を見たのが次のグラフです。

図Ⅰ－１．　三重県と桑名市の５年毎の人口及び将来推計人口の推移



※　2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は社人研推計値より作成

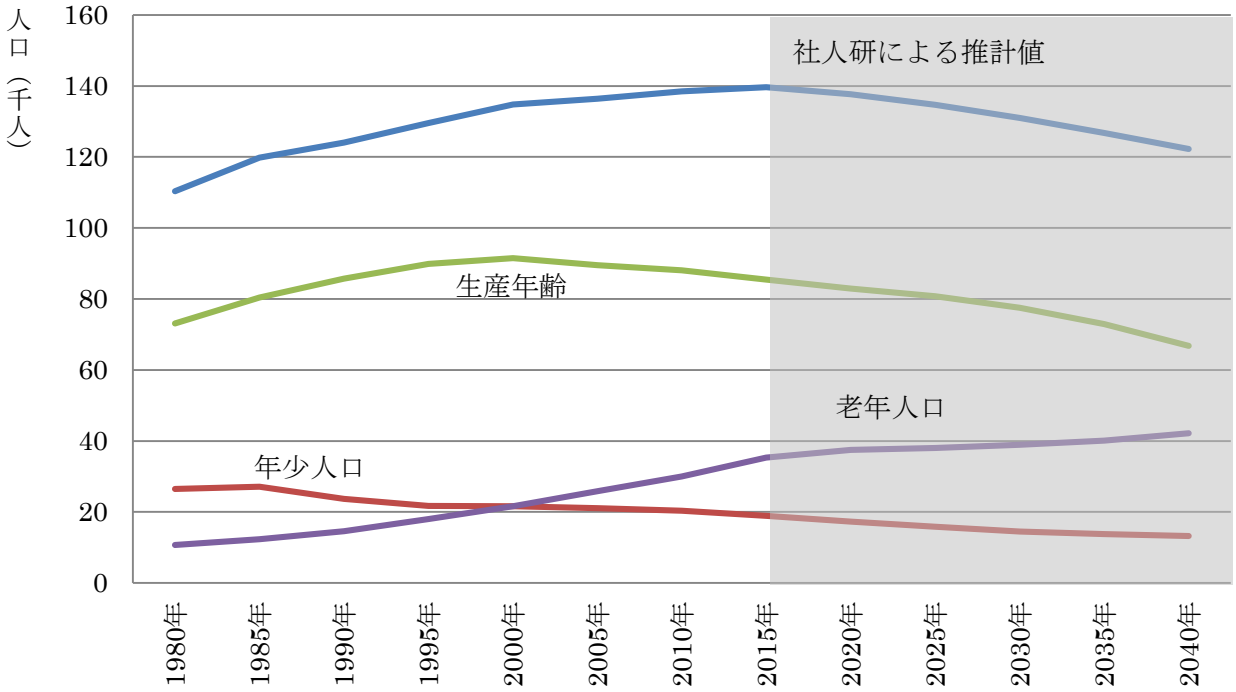
※　総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」より作成

- 三重県は2007年以降総人口数が大幅減少し、2040年にはピークである2007年の人口に比べ、約40万人の人口が減少すると推測される。
- 三重県に比べ、桑名市は1980年から2015年までに増加傾向がみられ、2015年から2040年にかけて人口が減少する見通しではあるが、大幅な減少は見られない。

（２）年齢別人口の推移と将来推計

桑名市における1980年から2010年までの人口及び2015年から2040年までの将来推計人口の推移について、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の３区分で見たのが次のグラフです。

図Ⅰ－２．　桑名市の年齢３区分の５年毎人口及び将来推計人口の推移



※　2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳除いている。

※　総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」より作成

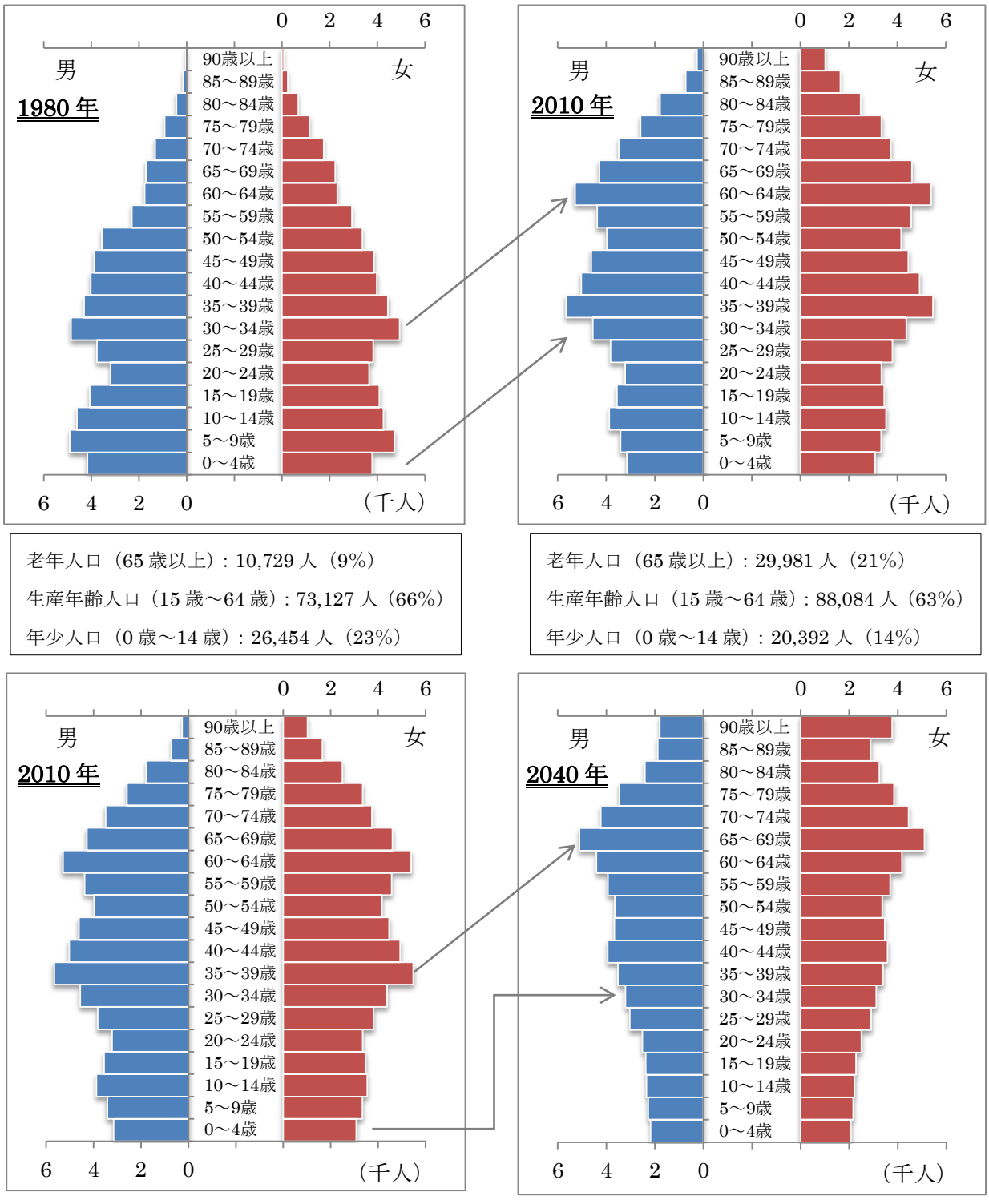
● 社人研の推計値によると、桑名市の総人口は2015年から2040年まで減少する見通しである。特に、生産年齢は2000年から減少しはじめ、2040年には1980年の総人口より少ないと推計される。

● 1980年から2040年まで年少人口は減少、老年人口は増加し続け、2000年には年少人口と老年人口の交差が見られ、2040年には老年人口が年少人口の倍以上を示すと推測される。

（３）人口構造の人口ピラミッドによる比較

桑名市の2010年の人口と30年前の1980年人口、及び30年後の2040年の将来推計人口について、人口ピラミッドで比較したのが次の図です。

図Ⅰ－３．　1980年及び2010年、2040年の人口ピラミッド比較



老年人口（65 歳以上）：10,729 人（9%）
生産年齢人口（15 歳～64 歳）：73,127 人（66%）
年少人口（0 歳～14 歳）：26,454 人（23%）

老年人口（65 歳以上）：29,981 人（21%）
生産年齢人口（15 歳～64 歳）：88,084 人（63%）
年少人口（0 歳～14 歳）：20,392 人（14%）

老年人口（65 歳以上）：29,981 人（21%）
生産年齢人口（15 歳～64 歳）：88,084 人（63%）
年少人口（0 歳～14 歳）：20,392 人（14%）

老年人口（65 歳以上）：42,183 人（34%）
生産年齢人口（15 歳～64 歳）：66,750 人（54%）
年少人口（0 歳～14 歳）：13,269 人（10%）

※　2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳を除いている。
※　総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」より作成

- 1980年は、総人口の中で年少人口と生産年齢人口が占める割合が高く、老年人口が少ない星形に近い。そして、0～4歳の出生数が少ないことから、少子化が進行し始めていると考えられる。

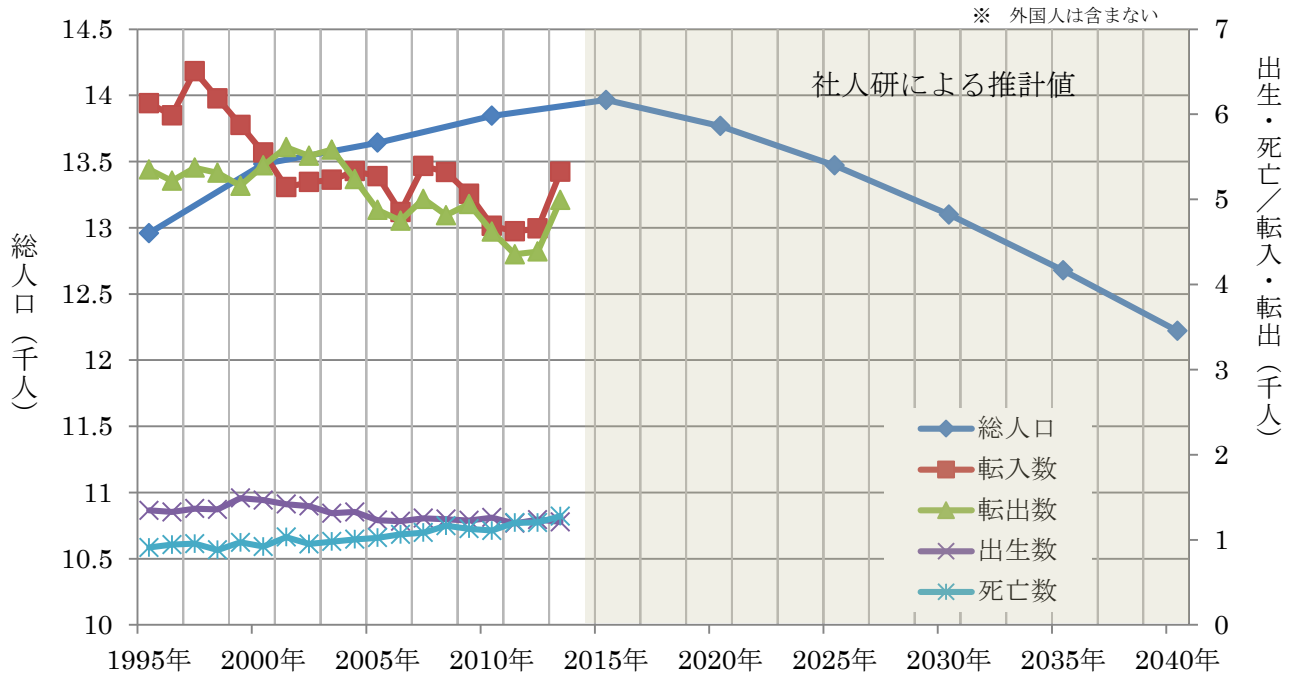
- 2010年の人口ピラミッドはつぼ型になっており、1980年に比べ、老年人口の割合が11%ほど増加し、高齢化社会への移動が見られる。一方、年少人口は10%ほど減少しており、少子化が進んでいると考えられる。

- 2040年にはさらに少子化及び高齢化が進み、1980年に比べ、老年人口が24%増加し、年少人口が14%減少すると推測される。しかし、2040年の人口ピラミッドの総人口は推計に基づく部分であるため、将来の出生率により変化する可能性が高い。

（４）出生・死亡、転入・転出の推移

桑名市における1995年から2013年までの出生・死亡数及び転入・転出数の推移を見たのが次のグラフです（社人研による推計値は2040年まで）。

図Ⅰ－４．出生・死亡数、転入・転出数の推移



※　総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」より作成

※　総人口のデータは、2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。年齢不詳は除いている。

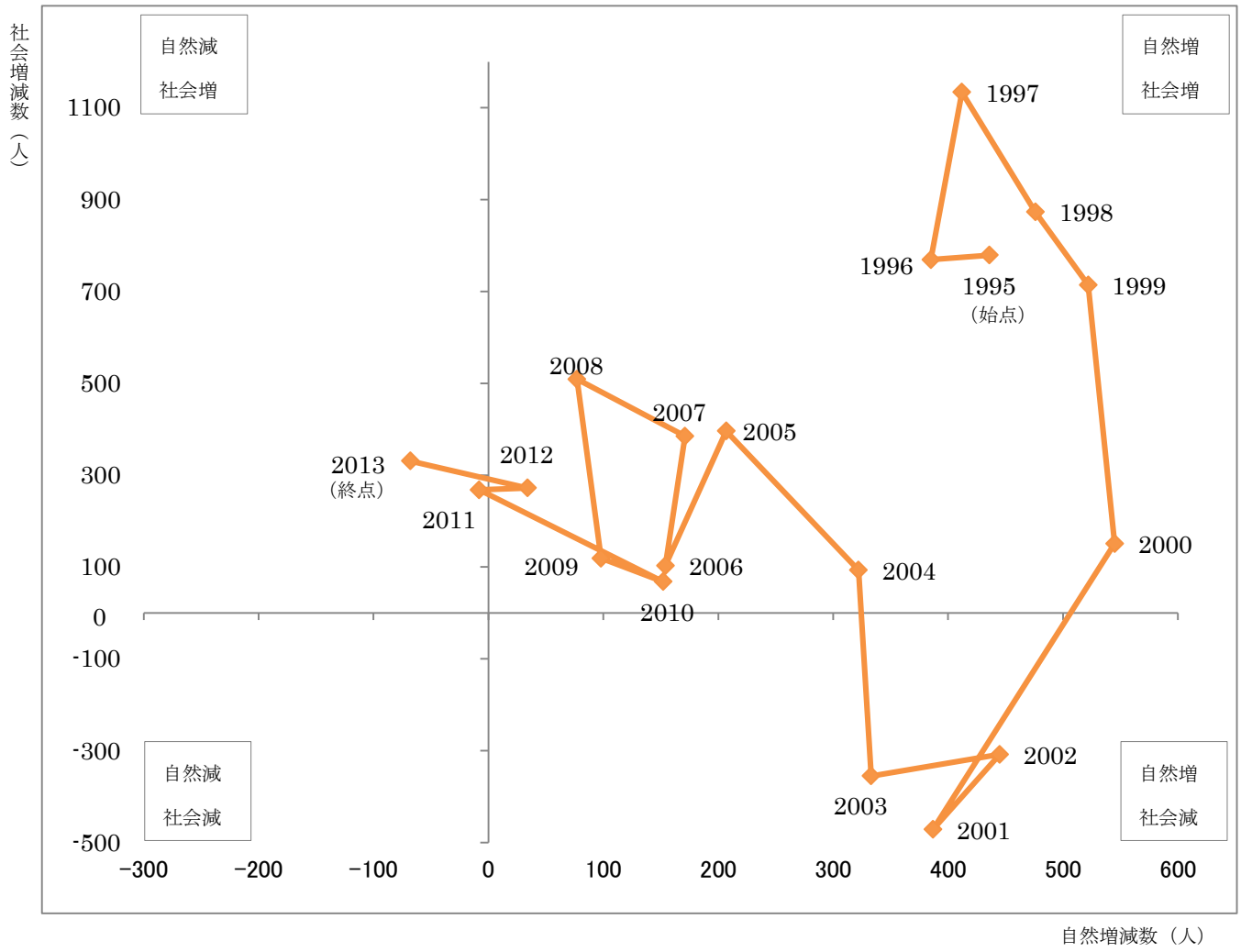
● 桑名市では、1995年から2010年まで出生数が死亡数を上回る「自然増」がみられたが、少子化の進行により2010年以降は、死亡数が出生数を上回り、「自然減」の時代に入っている。

● 転入・転出による社会増減については、2001年から2004年の間、転出数が転入数を上回り「社会減」がみられたものの、1995年から2015年にかけて転入が転出を上回る年が多く、社会増が続いている状況である。

（５）総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

自然増減と社会増減が総人口の推移に与えてきた影響を見たのが次の図で、横軸が社会増減の影響、縦軸が自然増減の影響となります。

図Ⅰ－５．総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響



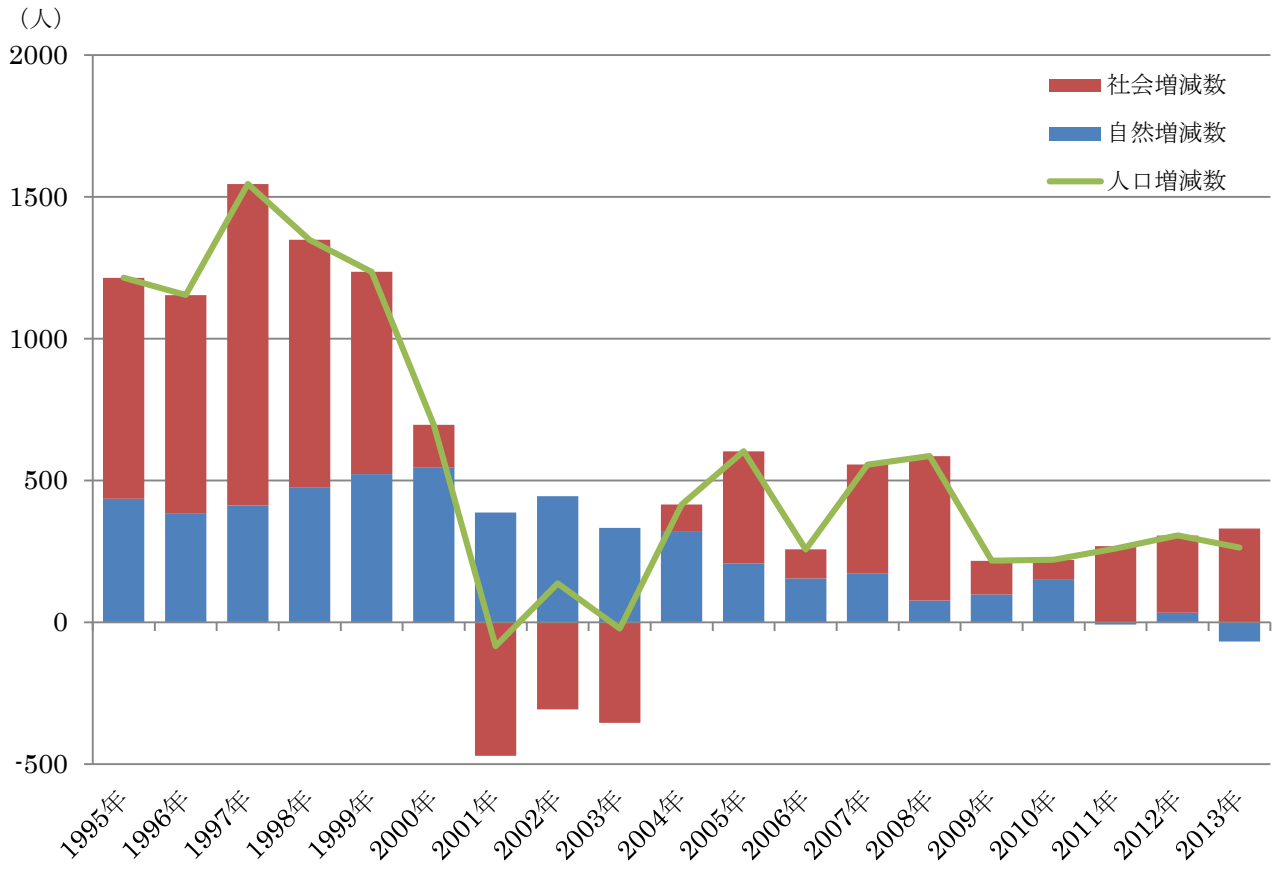
※総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口及び世帯数に関する調査」より作成

- 桑名市では、1995年から2000年まで社会増及び自然増により、人口が安定していたと考えられる。しかし、2001年から2003年までに社会減少がみられ、特に2001年には自然増は続いているものの、社会減がみられる。
- 2004年以降は、社会増と自然増が続いているが、2011年と2013年には自然減に転じている。
- 1995年から2013年までの自然増減と社会増減が総人口の推移に与えてきた影響を見ると、桑名市は平均的に長期間社会増・自然増の状態が続いているため、安定した人口が在住していると考えられる。

（６）桑名市の自然増減・社会増減・人口増減

1995年から2013年までの桑名市の社会増減数、自然増減数及び人口増減数を見たのが次のグラフです。原点（０）から上が社会増加・自然増加・人口増加、下が社会減少・自然減少・人口減少となっています。

図Ⅰ－６．桑名市の自然増減・社会増減・人口増減



※　総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

- 2001年から2003年に桑名市から他市・他県への転出者が多い社会減がみられる。また、2013年に死亡者数が出生者数を上回る自然減がみられるが、全体的に1995年から2013年まで社会増・自然増が続いている。
- 1995年から2013年にかけて自然増が続いてはいるものの、その数が減少し続けるため、少子化が進行していると考えられる。

２．人口の自然増減及び社会増減の分析

（１）全国及び三重県、桑名市の合計特殊出生率の推移

1997年から2013年までの全国、三重県、桑名市の合計特殊出生率を見たのが次のグラフです。

図Ⅰ－７．合計特殊出生率の比較

※　合計特殊出生率：女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までとし女性が一生に産む子供の数の平均

※　総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より作成

※　2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値より作成

※　1999年から2005年までの合計特殊出生率は、三重県健康福祉部「ヘルシーピープルみえ21データバンクシステム」参照

● 全国、三重県、桑名市の合計特殊出生率は、共通して1997年から2004年まで低下し続けてきたが、2005年から上昇する傾向である。

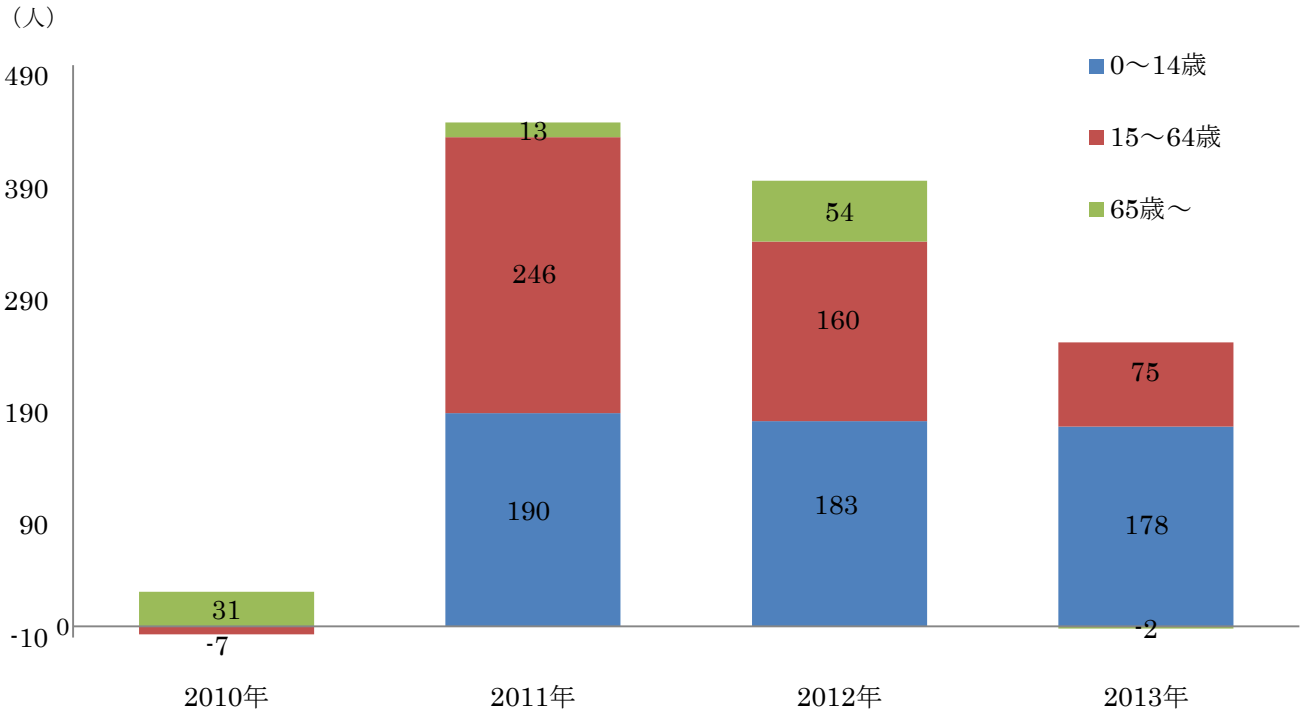
● 桑名市の合計特殊出生率は、2003年及び2007年－2009年以外は全国を上回っており、2013年には、三重県よりも高い合計特殊出生率を示している。

（２）桑名市の年齢階級別人口移動（社会増減）状況

桑名市における2010年から2013年の人口移動について、年齢階級別に見たのが次のグラフです。

原点（０）から上が転入超過、下が転出超過となっています。

図Ⅰ－８．年齢階級別の人口移動の状況（全体）



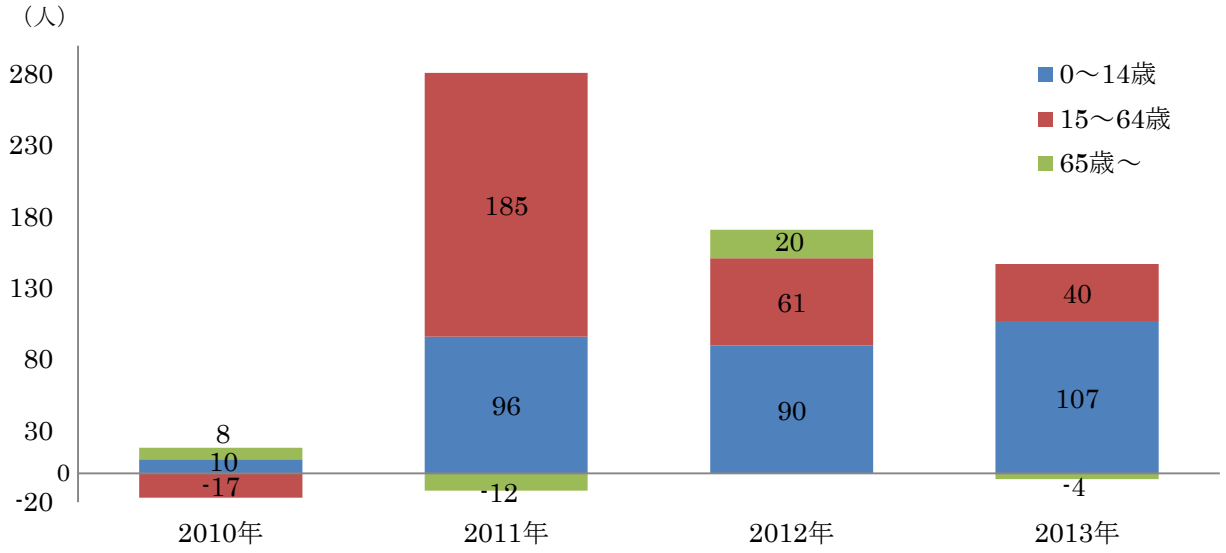
※ 総務省「住民基本台帳人口移動報告」により作成

- 2010年に15歳～64歳において転出超過がみられるものの、2010年から2013年まで転入超過が続いている状況である。つまり、桑名市から他市・他県へ移動する人より、桑名市へ移動してくる人の数が多いと考えられる。

- 転入者全体の中で0歳～14歳及び15歳～64歳の転入者数が、65歳以上の転入者を上回っている。

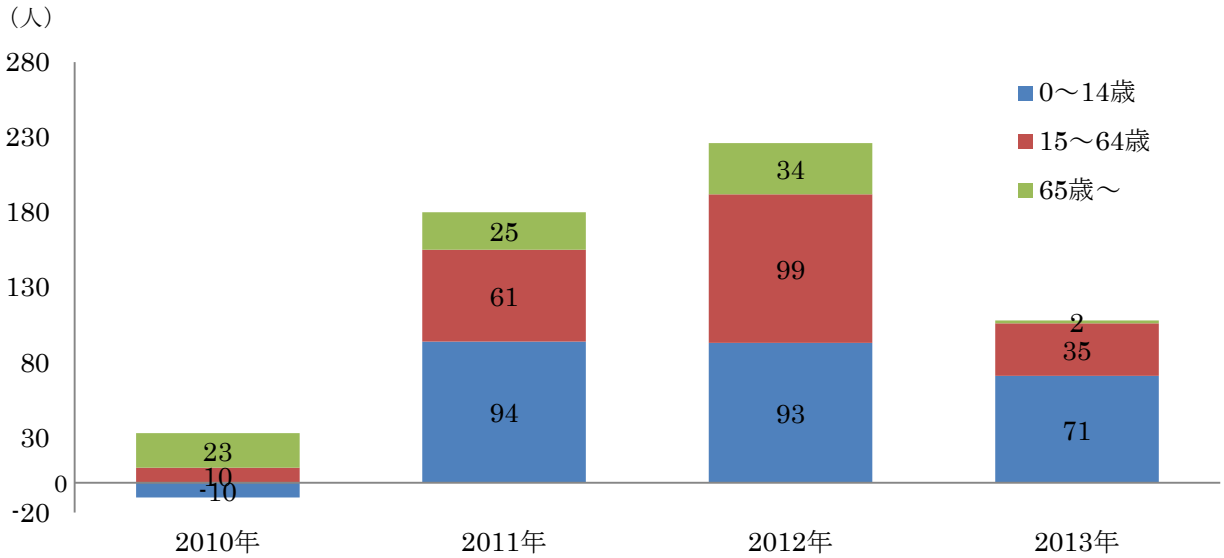
- 2010年に比べ、2011年には転入者数が大幅増加しているが、2013年にかけて全体的に減少傾向であり、2013年には65歳以上の人口に転出超過がみられる。

図Ⅰ－９．年齢階級別の人口移動の状況（男性）



- 2010年から2013年まで0歳～14歳の転入者数が増加傾向であるのに対し、15歳～64歳の転入者数は、2011年から減少傾向である。65歳以上では、年によってばらつきが見られる。
- 男性は2011年に最も転入超過が見られる。

図Ⅰ－10．年齢階級別の人口移動の状況（女性）

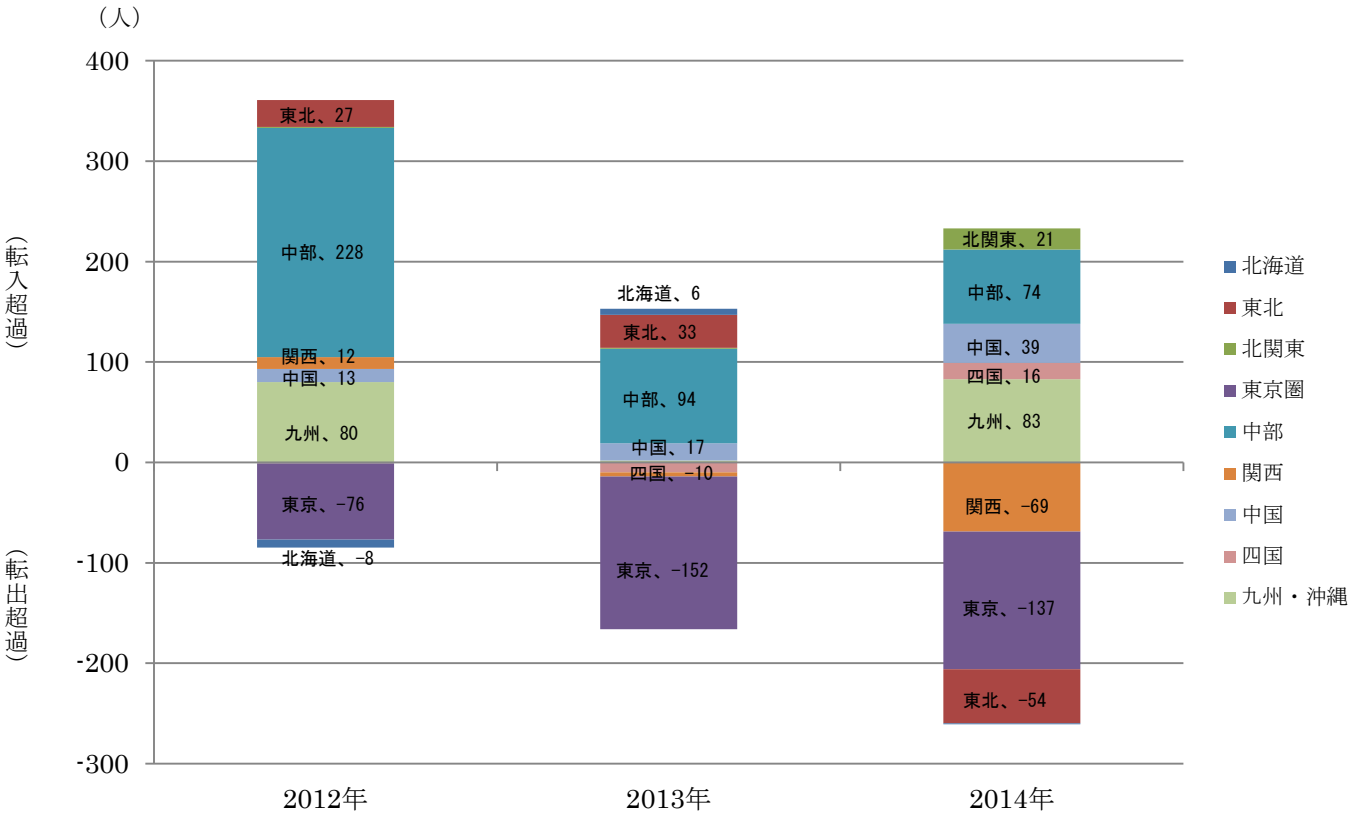


- 女性の全体人口移動者数は、2010年から2012年まで増加し、2013年に大幅減少している。また、2010年に、0歳～14歳で転出超過がみられるが、2011年からは転入超過が続いている。
- 男性は2011年に最も転入超過がみられるが、女性は2012年に最も転入超過がみられる。

（４）最近の地域ブロック別の人口移動状況

桑名市における2012年から2014年の県外人口移動について、地域ブロックに見たのが次のグラフです。原点（０）から上が転入超過、下が転出超過となっています。

図Ⅰ－11．地域ブロック別の人口推移の状況



※　総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成

※　地域ブロックの区分は下記のとおり（桑名市からの県内移動は含まない。）

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

北関東：茨城、栃木、群馬

東京圏：埼玉、千葉、東京、神奈川

中部：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

関西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国：徳島、香川、愛媛、高知、

九州：沖縄・福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

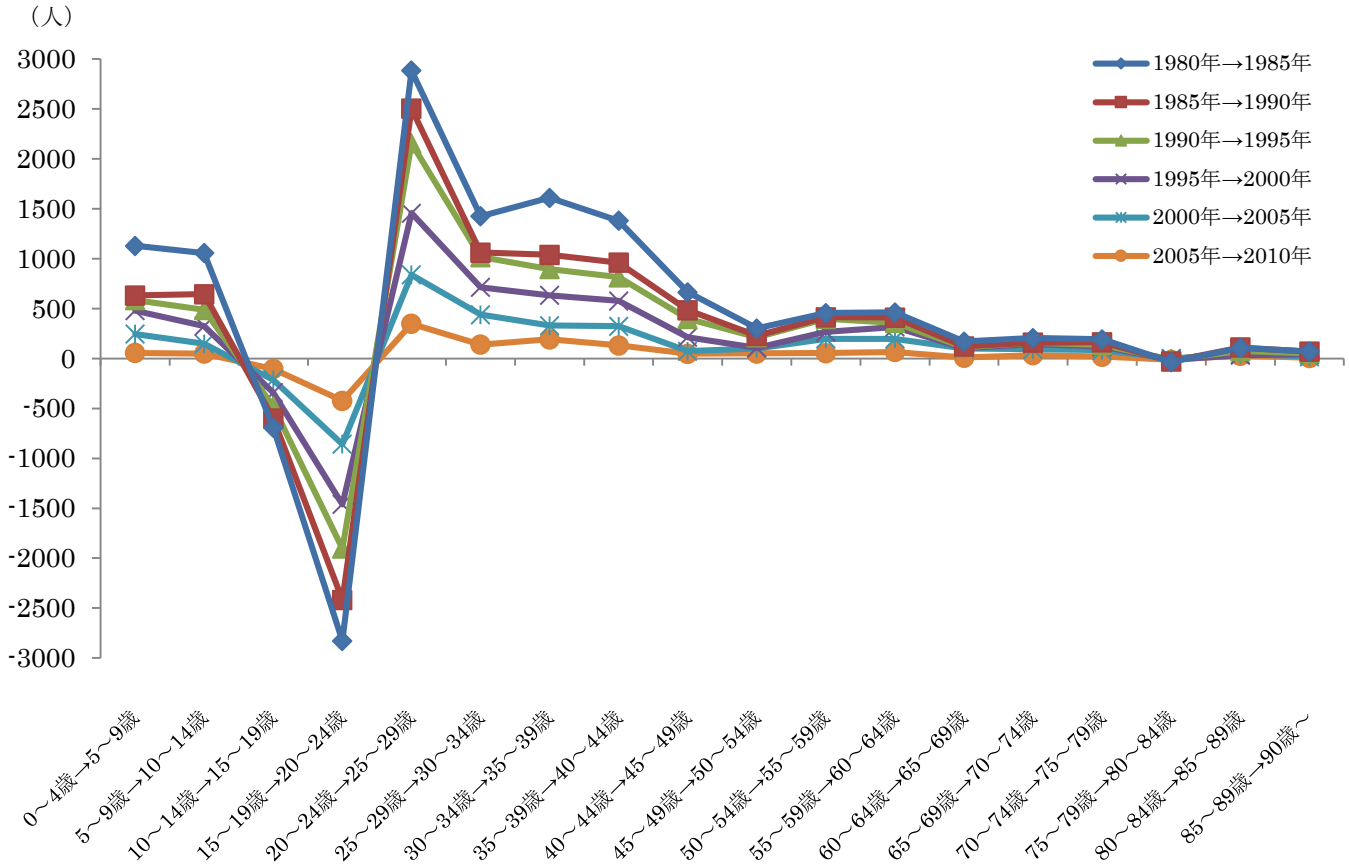
● 近年の桑名市の人口移動状況をみると、東京圏に対して転出超過が大きい傾向である。また、東北に関しては、2012年から2014年にかけて、転入超過から転出超過へ転じている。

● 中部に関しては、人数は減少しているものの、転入超過状態が続いている。

（５）性別・年齢階級別にみた５年間の人口移動状況の長期的動向

次のグラフは、桑名市における0歳から90歳以上の人口移動を、性別・年齢段階級別に1980年→1985年から最近までの推移を示しています。

図Ⅰ－12. 年齢階級別５年間の人口移動の推移（男性）



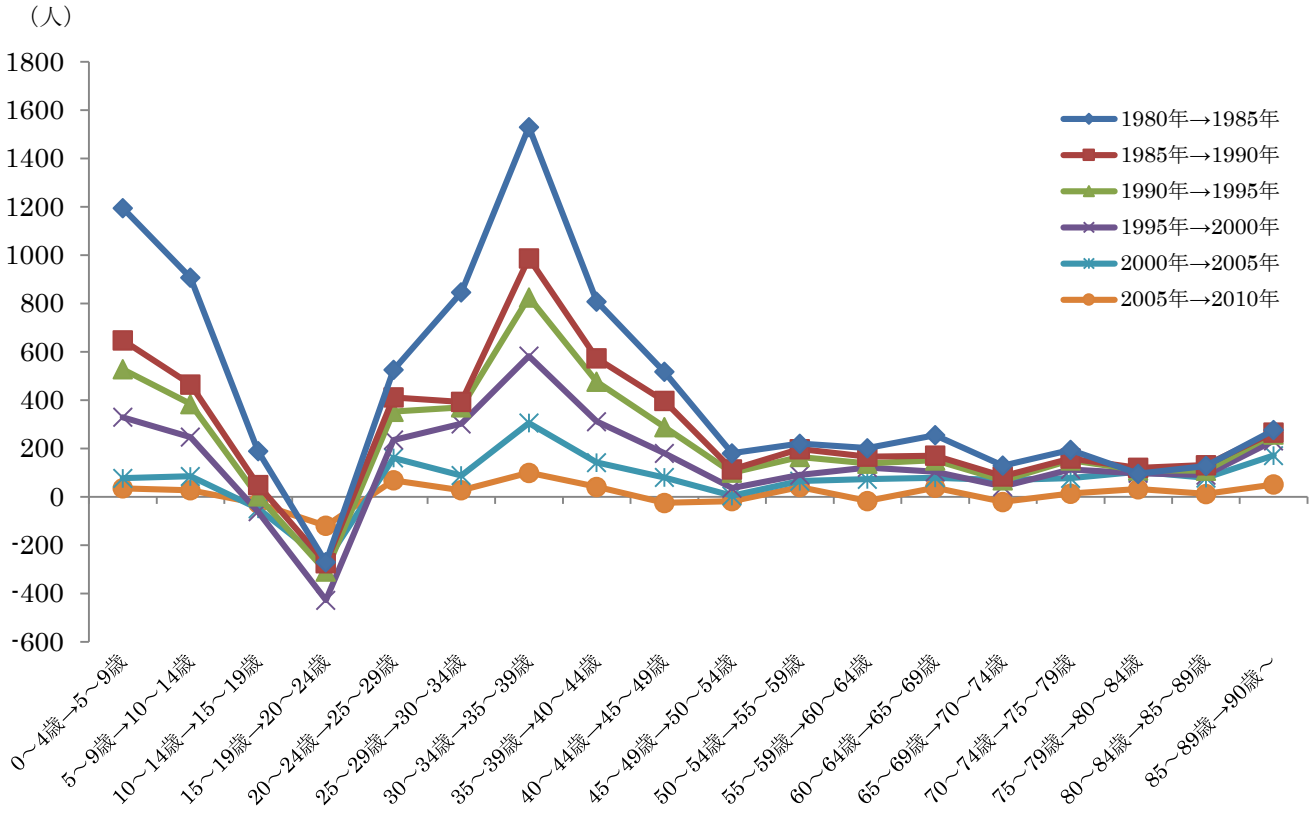
※ 総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づく推計値により作成

● 男性は、10歳～14歳→15歳～19歳、及び15歳～19歳→20歳～24歳に大きく転出超過がみられる。つまり、進学世代及び就労世代が桑名市から市外へ移動する人口が多いと考えられる。

● 進学世代以外、つまり20歳～24歳→25歳～29歳では転入超過がみられ、80歳台まで続いている。特に、30歳台及び40歳台で転入者数が多くみられる。

● 1980年→1985年から2005年→2010年までの人口移動の推移をみると、年々転入者数及び転出者数が大幅に減少している。特に、2005年→2010年では、大きな転入・転出がみられない。

図Ⅰ－13．年齢階級別５年間の人口移動の推移（女性）



※ 総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づく推計値により作成

● 男性と同様、女性の人口移動の推移でも、10歳～14歳→15歳～19歳、及び15歳～19歳→20歳～24歳で転出超過がみられる。しかし、男性は転出者数が約3,000人と大きくみられるが、女性は約400人と男性に比べて少ない。

● 男性では、20歳～24歳→25歳～29歳に転入超過がみられるが、女性の場合は、30歳～34歳→35歳～39歳で転入超過がみられる。また、その数も男性の転入者数に比べ、半分くらいの数である。

● 桑名市の場合、男女ともに20歳台から40歳台の人口移動で転入超過が見られ、40歳台以降も転入超過が続いているのが特徴である。

● 女性の人口動向推移でも1980年→1985年と2005年→2010年を比べると、年々転入者数及び転出者数が大幅に減少している。

○今回提示資料「桑名市の人口分析」について

- この度の資料は桑名市の総人口や年齢構成がどのように変化してきたか人口分析を行ない、さらに国の示す仮定の下で将来人口推計を行いました。
- 2015 年以降の推計値につきましては、「桑名市人口ビジョン(案)」として「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」とともに、次回、桑名市地方創生会議にてお示しします。